

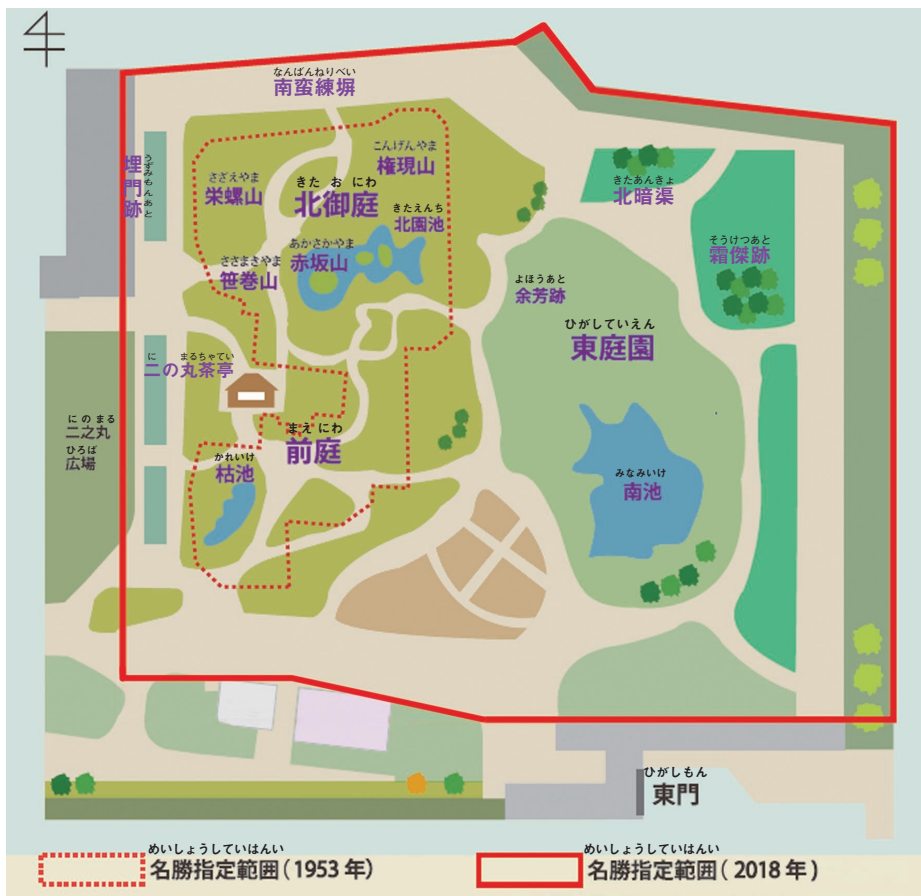
めいしょうにのまるていえん  
名勝二之丸庭園

二之丸庭園は、初代義直以来、  
代々、尾張藩の藩主が住んだ二之丸御  
殿に接してつくられた大名庭園です。

江戸時代の庭園の図には、多くの築山  
や御茶屋が描かれ、藩主が住んだ城内御  
殿の庭園としては日本一の規模です。

※「名勝」とは、景色がよく古くから残る有名な  
場所。

|                      |                                  |
|----------------------|----------------------------------|
| 1617年<br>(元和3)       | 二之丸御殿が完成しました。                    |
| 1620年<br>(元和6)       | 初代義直が二之丸御殿に移り、<br>その後庭園がつけられました。 |
| 1804~30年<br>(文化・文政期) | 10代斉朝が庭園の大改造を<br>行いました。          |
| 1953年<br>(昭和28)      | 北御庭と前庭が名勝に指定<br>されました。           |
| 2018年<br>(平成30)      | 二之丸庭園のほぼ全域が<br>名勝に追加指定されました。     |



名古屋城  
子ども博士になろう

学習シート「城内施設」編

名古屋城にはどんな建物や庭園があるのでしょうか

名古屋城の建物や庭園を見てみよう

名古屋城には、「本丸」に天守閣・小天守閣、本丸御殿、東南隅櫓と西南隅櫓、表二之門と旧二之丸東二之門、「二之丸」に庭園と大手二之門、「御深井丸」に西北隅櫓があります。



## てんしゅかく しょうてんしゅかく 天守閣と小天守閣

てんしゅかく がいかん じゅう ち か かい そうとうがた  
天守閣は外観5重、地下1階の層塔型  
てんしゅ しょうてんしゅかく がいかん じゅう ち か  
天守です。小天守閣は外観2重、地下1  
かいのつくりで、地階は天守閣の地階と橋  
だい いしがき つう ろ むす  
台という石垣の通路で結ばれています。



## すみやぐら 3つの隅櫓

ほんまる どうなんすみやぐら せいなんすみやぐら お  
本丸には東南隅櫓と西南隅櫓、御  
ふ け みる せいほくすみやぐら すみやぐら  
深井丸には西北隅櫓の3つの隅櫓が  
げんざい の せいほくすみやぐら きよ  
現在も残っています。西北隅櫓は「清  
す やぐら い じょうない  
須櫓」とも言われ、城内でただ1つの  
じゅう かい  
3重3階のつくりになっています。

どうなんすみやぐら せいなんすみやぐら そと  
東南隅櫓と西南隅櫓は、外から2  
じゅう み ない ぶ かい じゅう  
重に見えますが、内部は3階で、2重3  
かい  
階のつくりになっています。



せいほくすみやぐら じゅうようぶん か ざい  
西北隅櫓（重要文化財）



どうなんすみやぐら じゅうようぶん か ざい  
東南隅櫓（重要文化財）



せいなんすみやぐら じゅうようぶん か ざい  
西南隅櫓（重要文化財）

## じょうもん いち の もん に の もん 城門（一之門と二之門）

じょうない ほんまるおとて に の もん きゅう に の  
城内には、本丸表二之門と旧二之  
まるひがし に の もん に の まるおとて に の もん  
丸東二之門、二之丸大手二之門の3  
つじょうもん げんざい の こ  
つの城門が現在も残っています。

じょうもん ほんまるおとて に の もん  
城門は、2つの門（一之門と二之門）  
で「柵形」をつくり、敵の侵入を防ぐしく  
ますがた てき しんにゆう ふせ  
みになっていました。また、本丸表二  
のもん さ ゆう ど べい てっほう ざ ま  
之門の左右の土堀には「鉄砲狭間」  
もう いち の もん かたち やぐら  
が設けられています。一之門の形を櫓  
もん に の もん かたち こうらいもん い  
門、二之門の形を高麗門と言います。



ほんまるおとて に の もん じゅうようぶん か ざい  
本丸表二之門（重要文化財）



きゅう に の まるひがし に の もん じゅうようぶん か ざい  
旧二之丸東二之門（重要文化財）



に の まるおとて に の もん じゅうようぶん か ざい  
二之丸大手二之門（重要文化財）

## こうぎ ぶしん いしがき 公儀普請の石垣

な ご やじょう いしがきこうじ こうぎ ぶしん  
名古屋城の石垣工事は公儀普請と  
して、西国・北国の大名20家によって  
さいごく ほっこく だいまよう け  
行われました。大小守台の石垣は、  
おこな だいしょうてんしゅだい いしがき  
加藤清正によって築られました。天守  
かい とうきよまさ きず てんしゅ  
台の石垣は弓のようにそり、石の重み  
だい いしがき ゆみ いし おも  
や土の圧力がたくみに分散されていま  
つち あつりよく ぶんさん  
す。ゆがみにくく、しかも美しい形になっ  
うつく かたち  
ています。また、石垣工事に使われた  
いしがきこうじ つか  
石垣の石には、ほか だいまよう はこ  
他の大名が運んできた  
いし く べつ な まえ き こう  
石と区別するために、名前や記号など  
こくいん きざ  
の刻印が刻まれています。

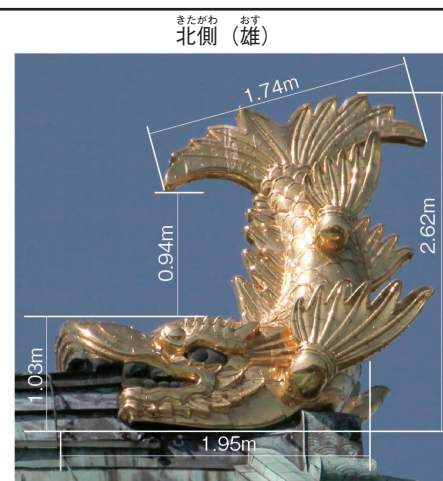
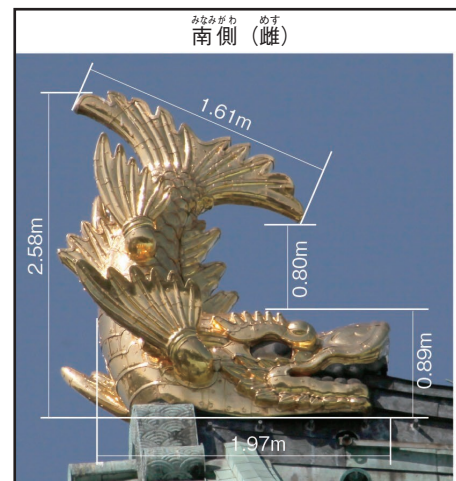


てんしゅだい いしがき  
天守台石垣

## しょうだい だいい ぎんしゃ 初代と2代目の金鯢

な ご やじょう てんしゅ や ね たてもの  
名古屋城の天守の屋根には、建物  
か さい まも れいじゅう ぎんしゃ の  
を火災から守る霊獣として、金鯢が載っ  
ていました。初代の金鯢に使用された  
ぎん じゅん ど きん こばん  
金は、純度80パーセントの金、小判に

まん りょう そうとう  
して1万7975両に相当するものでした。  
ご ぎんしゃち なん ど い なお  
その後金鯢のうろこは何度も鋳直され、  
ねんしょう わ がつ こうしゅう てんしゅ  
1945年(昭和20)5月の空襲で、天守  
とともに焼け落ちてしまいました。現在  
ぎんしゃち ねんしょう わ  
の金鯢は、1959年(昭和34)につくら  
れただいい ぎんしゃち  
2代目の金鯢です。



だいい ぎんしゃち  
2代目の金鯢